

e - J a p a n の考察 (7)

ここまで、e - J a p a n についていろいろと書いてみました。ネットワークを含むいろいろな新しい技術が使われています。確かに、セキュリティについていろいろと対策は行われているでしょう。そして、ユビキタスがキーワードとなるように、身近なものがいろいろとネットワークにつながっています。このような環境では、電子政府、電子自治体をこのネットワークで接続して、これまで窓口業務であったものを、ネットワーク上でできないかというのは自然な流れではあると思います。これまでは、複数の窓口に行かなければならなかった各種届や、転出、転入の両方の自治体に必要だった移転届などが、ネット上でできれば届が1箇所ですんだり簡単になったりします。セキュリティについても、外からのものは、きちんと考えられています。しかし、大丈夫なのでしょうか。

今から数年前、国民総背番号制が話題になったものです。生まれたら、国民一人一人にID番号をつけてしまおうとするものです。確かに管理側からすれば、生まれてからずっと変わらない番号を付けてしまうことは、管理しようとするればこれほど便利なことはありません。番号さえ分かれば、1個人を確定することができるのですから。税徴収も簡単で確実ですし、履歴書にうその記述をしても分かりますから、他人へのなりすましも難しくなったりします。銀行での口座もこのID番号が必要になれば、架空口座を作ることもできなくなります。ましてや全国がネットワークでつながるので、空港の出入力管理でチェックすることもあわせれば、全国瞬時にだれがどこにいるかがわかってしまいます。

個人認証に、個々にはICカードが配られることになります。どこかの大臣が言っていました、たいした情報は入っていないからプライバシーは問題ない、というのはどうでしょうか。確かに、現在このカードには、住民票コード(ID番号)の他に氏名、生年月日、性別ぐらいしか入っていません。しかし、このカードができるということで、病院などからは、診察券の代わりに使えないかなどの問い合わせがあったようです。そうすると病院情報がこのICカードにつながるようになります。そのうちに公共的な利用券、例えば定期券などが使えるようになるかもしれません。そうすると、このカード1枚で個人データがすべて引っ張り出せる可能性が出てきます。そして、病院などの施設を利用するときはこのカードを持ち歩かなければならないのです。このカードは、実印の印鑑登録証のようなものです。印鑑登録証を持ち歩くのでしょうか。

また、外からのセキュリティは考えられているといましたが、内側からのセキュリティはどうでしょうか。日本のシステムは、結構公務員善人主義で作られています。役所の人間に悪いことをする人はいないというイメージです。これまでも、役所がコンピュータ化されることによって、住民のデータを役所の人は割りと簡単に読み出すことができました。それが、日本中のデータがつながるので、もし内部で、他人に成りすまして(ICカードと、ユーザパスワードで保護されていますが、現実の利用方法は割りと簡単ではないでしょうか)他の自治体の情報を読み出すことは、割りと簡単かもしれません。まして、ハッカーが役所にいけば、ネットワークがどれだけ外からの侵入を阻んでいても、跡を残さないでデータを盗むことも可能に鳴るでしょう。内部からといえば、開発は財団法人のLASDECが行っていますが、あくまで民間企業の寄せ集めですし、ここでデータ収集プログラムをしのばされてし

まったら、防ぎようはないでしょう。

このように、今回の電子政府、電子自治体のシステムは、いろいろ問題が内在しています。それは、主に運用に関する部分にてなるかもしれません。確かに、すべてのデータがネットワークでつながることは、いろいろと便利ではありますが、それに対していろいろな問題があることもよく知ってもらいたいものです。もしかすると、パソコンをたたくと、特定の人が今どこにいて、何を買って、健康状態や、資産状態、趣味、嗜好までが画面表示されるようになるかもしれません。本人は、自分の携帯に、嗜好にあったその周辺の情報が表示されることで、便利になったと思うだけかも知れませんが。現実には、ID番号とパスワードをマシンの横に張ってあるようなセキュリティの意識しかない状態で、流れに乗らなければ遅れてしまうかのような、いつのまにかのような実施の方法は疑問があるのではないのでしょうか。(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 1月20日号

特集 MRAM、256Mへの確信

→SRAMに迫る高速性、DRAMに近い集積度を備え、無制限に書き換え可能で不揮発性というMRAM。これまでのメモリは電圧でON/OFFしていたが、MRAMはHDDと同じ磁力で素子の磁性体の磁界方向を変更する。256Mができれば、これまでのメモリの置き換え以外に、新たな用途が拡大する。

○日経パソコン 1月20日号

特集 画像を「作品」にするテクニック

→手軽に撮れるデジカメ。せっかくなら印刷して、さりげなく人に見てもらうための、アイデア、テクニックの紹介。小さくして、カレンダーやブックカバー。ポスターにして部屋に張るには。

特集 間違いだらけのセキュリティ対策

→コンピュータウィルス、不正アクセスに対抗するため、セキュリティソフトを入れたら調子が悪くなったり、ウィルスに感染したり。ソフトの設定ミスを避けるには。状況に応じての設定の方法を紹介。

レポート HDDのデータ消去

→中古ショップに売ったり、リースアップのパソコンを処理するときのHDDのデータ消去の方法。削除したつもりでもデータ復活ソフトを使えば復元できてしまう。簡単なのは消去ソフトを使う。

○日経バイト 2月号

特集 Linuxルネッサンス

→一時ブームだったLinuxも本当の実力を備え、これまで弱かったオフィスソフトの充実もあり、自分にあったものが選択できる。現在のLinuxの実力を探る。

特集 セキュアな無線LAN機器の菅田

→無線LANはまだまだセキュリティに弱く盗聴が可能というのが常識となっている。その中でセキュアな製品を選ぶには、製品の仕様をどう読めばいいか。セキュリティの動向と対処方法を見る。

レポート 電子ペーパーはどこまで来たか

→紙のコピーがもつ見易さと、情報が書き換えられるというデジタル機器

の利点を併せ持つ電子ペーパー。現在はどこまでできているか。各社の各方式の説明と今後について。

○日経オープンシステム 2月号

特集 クライアントOSの移行シナリオ

→ころころ替わるクライアントOS。せっかくなま動いているのにOSのサポートがなくなるからといって替える意味がない。ようやくマイクロソフトもサポート期限を出荷開始から最低7年と延長した。10年先までの移行シナリオを検討モデル化。

○ASCII 2月号

特集 マザーボードのすべて

→最新マザーボードの基礎知識。各部の個別の紹介の基礎編から、最新マザーボードの製品紹介。

特集 ブロードバンド高速化大全

→高速なブロードバンドを簡単な作業で高速化をはかる方法。実際どのくらい速くなるのか。簡単な方法から、市販ネット高速化ツール、ブロードバンドルータの選び方など。

○DOS/V magazine 2月15日号

特集 達人たちの無線LANスッキリ運用法

→ノートパソコンに標準で内蔵されていたり、カードやアクセスポイントも安くなって普及してきた無線LAN。無線LAN構築の基本と、起こりがちなトラブルへの対処方法を特集。